

地域おこし協力隊

活動報告

(R3/08/02~R4/03/18)

上越市 吉川区 川谷集落 地域おこし協力隊

宇野 拓朗



活動概要

- ・ 地域 吉川区 川谷地区
3町内会(川谷、石谷、名木山)
- ・ 期間 2021年(令和3年) 8月2日～
- ・ 業務内容
 - ① 棚田の維持管理
 - ② その他の耕作
 - ③ 地域交流・振興
 - ④ イベント参加
 - ⑤ ジビエ解体研修
 - ⑥ 除雪支援
 - ⑦ さいの神と冬祭り
 - ⑧ 声優が防災無線

① 棚田の維持管理

棚田の師匠・天明伸浩氏(中央)を挟む
三輪隊員(右)と宇野(左)



毎日畔の草刈りを行い
ほ場の整備をしています
(8月～10月)



大賀集落で稲架掛けした稲を脱穀
藁は束ねて保管します
(9月～10月)



黄金に輝く稲穂たち
天明さんの指導で収穫します
(9月～10月)



来年の稲作への準備が始まる
肥料を撒き、秋打ちをします
(10～11月)



②その他の耕作

完熟ブルーベリー



天明伸浩氏とパートナーの香織さんが管理する『ブルーベリー園』。三輪隊員と一緒に剪定や収穫を手伝いました。収穫したブルーベリーは冷凍保存され、ブルーベリージャムやソースに加工されます。稲刈りが始まる前の7～8月にちょっとずつ収穫していきます。

念願の収穫 My 野菜



ベランダに干す大根



こんなにでかくなっちゃう

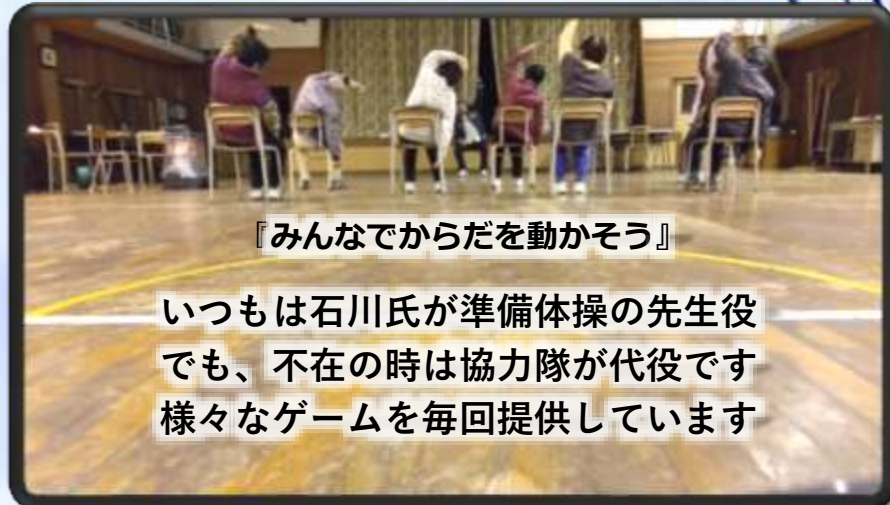


おすそ分け野菜たち



自宅の前にある畑を間借りして、秋野菜や越冬野菜の栽培にも挑戦しました。大根、カブ、白菜、チンゲン菜、とう菜... 近所の方の畑の雑草抜きを手伝うと、たくさんのお返し(野菜)をいただきました。大根は外に干して、本格的な漬物づくりにも挑戦しました。完成した沢庵は絶品でした。

③地域交流・振興



『みんなでからだを動かそう』

いつもは石川氏が準備体操の先生役でも、不在の時は協力隊が代役です
様々なゲームを毎回提供しています



みそづくり体験 麴仕込みの様子



石谷集落にてそばの収穫をお手伝い
稲刈りと違って細身のそばに苦戦
まだ日差しの強い10月の作業
日陰での一休みが心地よい



そば打ち名人の家で初体験



道普請などは男性も女性も参加
作業中は暑さや疲労が襲います
終わった後は爽やかな風が吹く

任用後、SNS等で川谷地域での暮らしを発信し続けてきました。先輩協力隊の石川氏や、先輩移住者の嶋谷氏から様々な活動へと巻き込んでいただいたこともあり、とてもすんなりと地域へ溶け込み、川谷地域の良さを伝えることができました。川谷地域では、石川氏が指導する「みんなでからだを動かそう」という地域の住民参加型の行事を毎月行っています。農繁期には、定期的に道普請や水路普請を行い、大切な農地を全員で守っています。他にも、川谷生産組合にて嶋谷氏や地域の母ちゃんたちから味噌づくりを教わったり、そば刈り・そば打ちを体験させていただいています。

④ イベント参加

上越市内、主に吉川区を中心にイベントや体験活動をしています。

里山シンポジウムでは、やまざと暮らし応援団の活動を振り返り、翌日の薪づくりイベントでは私がマサカリを用いた薪割りの実演・指導をしました。

イベント全体を通じて、参加者の方々から満足の声も聞かれる中、次のステップへの課題も見えてきました。

また、竹細工教室や雪室野菜施設の見学など、この地域ならではの活動を見ることができました。

個人的にも、活動以外のプライベートの時間を使って上越の良いところを探しています。レルヒ祭に合わせて行われる、高田本町商店街の「ガチ盛り祭り」や灯の回廊など、市内各地で多様なイベントが行われているのは、山も海もある自然豊かな上越市ならではの魅力だと思います。



「うしだ屋」の牛田氏による
ぶなの森散策の様子



私による“薪割り実演”



素敵な竹細工



⑤ジビエ解体研修

ジビエ加工処理施設『柿崎ブーシェリー』

代表の森本祐造氏に師事し、令和3年11月よりジビエ解体研修を受けています。

生きたイノシシの止差しを行い、腸を取り出し、氷水に漬けて氷温に下げ、皮をはぎ、解体し、部位ごとに真空パックして冷凍保存します。

これまで何頭も解体してきたおかげで、今では一人でそつなく作業できるまでに成長しました。

新たに、柿崎の筒井隊員を招き入れ、私が解体指導や見本を見せることも。

命をいただくことの意味を再確認し、就農後の副業としても魅力を感じる仕事です。

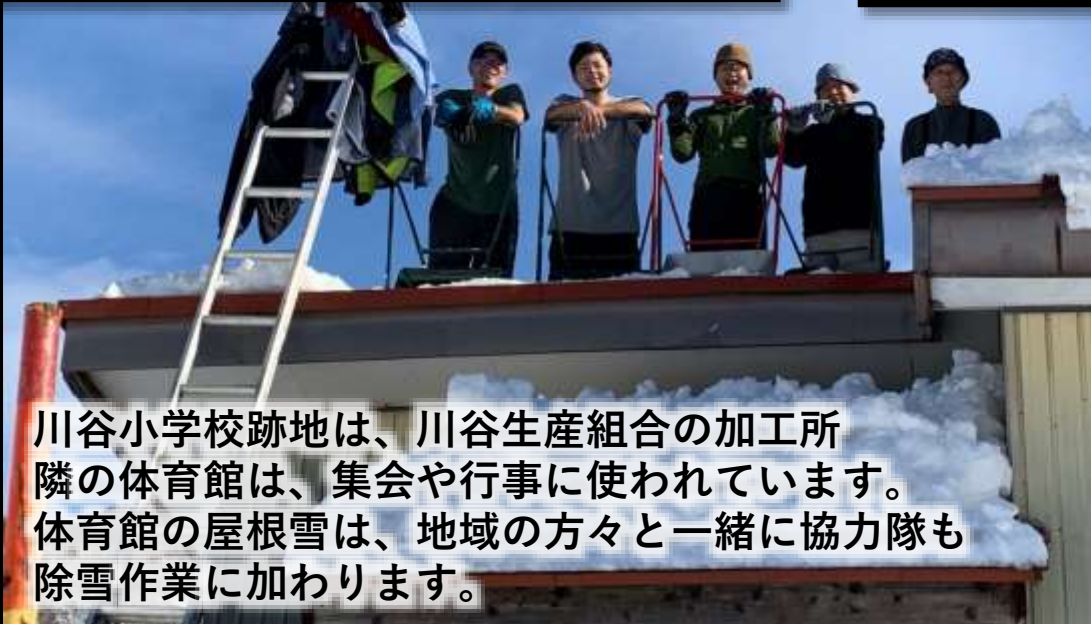


⑥ 除雪支援

川谷地域の中では除雪が必要な世帯がいくつかあります。一人暮らしの女性の家や集落で管理する空き家など。協力隊も、依頼を受けて除雪作業に向かいます。



誰かがつくった雪だるま



冬仕事と並行して行わなければいけないのは自宅周辺の除雪。朝に除雪をして出かけて、夕方家に戻ると膝下まで雪が積もっていた…なんてことも日常茶飯事。



⑦ さいの神と冬祭り



ここ、川谷地域で伝統ある冬祭りとさいの神。
五穀豊穡を願い「さいの神」は作られます。その資材はすべて現地調
達。ご神木を切り倒し、工夫しながら立派なさいの神は作られます。
今年もコロナウィルスの影響で規模は縮小していますが、三輪隊員の
提案で新たにライブ配信を試み、私も川谷地域の方々にインタビュー
を行い、確かな手ごたえと好評をいただけたようです。

⑧声優が防災無線！？ 元ノーギャラでも

全国初から

新米新聞

川谷地域の積雪量が2メートルを記録したところ、自宅周辺の除雪作業をしていた私のもとに一本の電話が掛かってきた。「元声優の宇野さんに頼みたい仕事がある。」という内容であった。なんでも、地域で各世帯に流している防災無線を、私の声で録音してほしいとのこと、私

は喜んで引き受けた。録音ブースは、吉川区総合事務所の一室にある。そこで私は、初見の原稿を渡され、地域に発信する情報を録音する。これには注意点多く、あとで放送を聞いた方から「聞き取れなかった」と言われては問題になる。責任重大な仕事に、気持ち引き締まる。



▲吉川区総合事務所で防災無線の録音を行う宇野隊員。
声優事務所に所属していたころの宣材写真(左上)



～活動を振り返って～

半年 という、他の隊員と比べると短い期間ではあったが、私なりに川谷での暮らしを楽しみながら、地域に溶け込んでいくことができた。ちょうど一年前、現地見学に訪れたとき「こんな雪の中で人が生活できるのか？」と思った自分を思い出す。簡単ではなかったが、雪にも寒さにも負けず、春を迎えることができそうだと。確かな自信になった。

稲作 に関しては、令和4年度からが本格的に研修開始になる。去年はできなかった田植えの作業を含め、一年間お米のことを第一に考えながらの生活が始まる。川谷の棚田で自分のお米を作ること目標の一つに据えているので、誠心誠意向き合っていきたい。

自分 ひとりではどうにもならないことも、受け入れてくれた集落や市の方々の手厚いサポートや、先輩移住者の方々の指導があって、今こうして充実していることは忘れないようにしたい。また、川谷地域では三輪隊員と私の二人がほぼ同時に採用されているが、同じ地域に仲間がいるというのも心強かった。

今年 は、また一つステップアップする年になる。現在研修を行っているジビエに関しては副業として展開していけるか吟味しなくてはならない。ほかにも、半農半Xにあてはめられる仕事は何なのか、住居整備や情報発信など、川谷の移住モデルとなるためにやるべきことは一つずつクリアしていく。

